

「底生生物調査」を実施しました

平成22年1月27日～29日に、滋賀県の琵琶湖で、モニタリングサイト1000陸水域（湖沼）調査の「底生生物調査」を実施しました。

この底生生物調査では、深い湖沼の湖心において実施します。これにより、地球温暖化などの影響を検出できる可能性があります。調査の実施に当たっては、滋賀県琵琶湖環境科学センターにご協力いただきました。

この調査では、湖底の泥を採取できる「エクマン・バージ採泥器」（調査風景写真・上右）を用いて、琵琶湖北湖の水深約90mの湖底から泥を採取しました（同・下左）。この器械は、「底が開いた箱」のようなもので、水底で箱の底が閉まって泥をすくい取ります。

得られた泥の塊は研究室に持ち帰り、篩（ふるい）にかけて、泥と底生生物を分けました。底生生物としては、エラミミズ、イトミミズ科の一種（生物写真・上左）とその卵胞（同・下左）、アナンデルヨコエビ（同・右）などが得られました。



底生生物調査サイト位置図

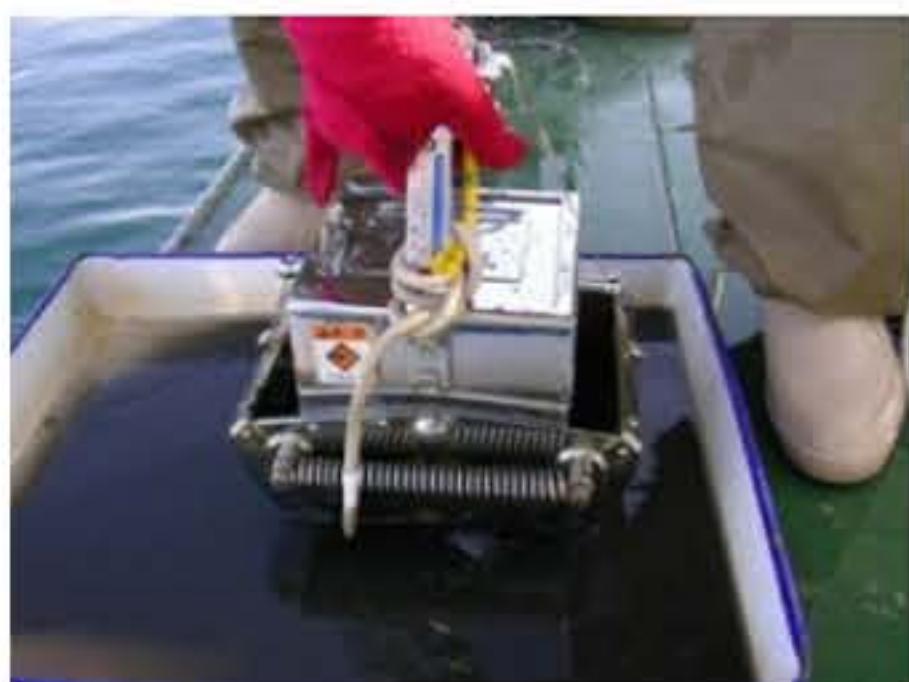
調査風景



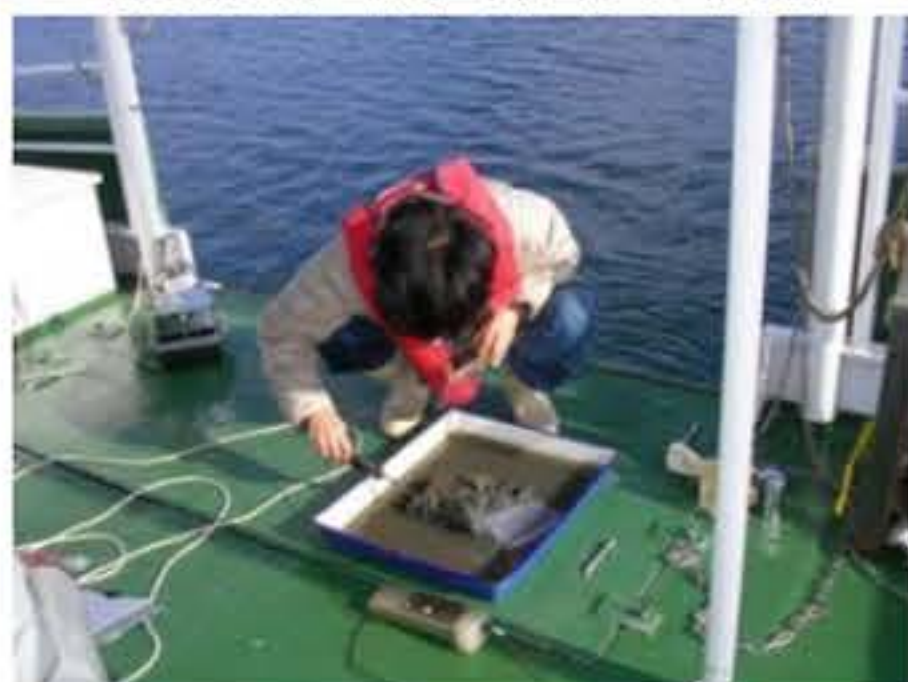
琵琶湖北湖の景観



エクマン・バージ採泥器
（底の開口部が、湖底で矢印のように閉まる）



琵琶湖の湖底から泥を採取する



泥の性状を観察し、その温度を測定する

生物写真



イトミミズ科の一種とその卵胞
（白い棒は1mmのスケールバー）



アナンデルヨコエビ
（白い棒は1mmのスケールバー）



イトミミズ科の一種とその卵胞
（白い棒は1mmのスケールバー）

